



ウィデンマン

メガツイスター
取扱説明書

製品番号 891 00 40

2012 年 11 月

前書き

本書をよく読み、機械の正しい操作及び整備方法を理解し、事故や機械の破損を防いで下さい。

本書の寸法は全てメートル法で示します。純正交換部品、金具類を必ず使って下さい。

本書での左右は機械の前方に向かっての方向を意味します。

シリアルナンバーを本書の仕様、シリアルナンバーの欄に記入して下さい。これらの番号は販売店への部品発注にも必要です。シリアルナンバーは機械以外の安全な場所に記録しておいて下さい。

本機の納入前に、販売店は本機を検査して最高性能を確認しております。

本機は緑地専用設計されており、その作業対象緑地の表層に風を吹き出す専用の機械です。（指定の方法で使用して下さい。）

その他の方法での使用は、意図した用途に反するとみなします。メーカーは誤用が原因での怪我や破損に対して一切の責任を負いません。怪我や破損の危険性は、使用者のみが負うものとします。メーカーが規定する運転、サービス、修理条件を厳格に遵守、履行して下さい。

本機を取り付けて人や物を輸送するような使用は許可されていません。

事故防止のため、本機はその特性全てに精通し関連の安全規定を熟知した者だけが運転、サービス、修理するものとします。事故防止規定、その他一般に認められた安全と職業病医学に関する規則及び道路交通法を常時遵守するものとします。

本機に許可無く勝手に改造を行なった際は、その結果としての破損や怪我に対してメーカーは一切の責任を負いません。

目次

1.	安全	5
1. 1	安全デカル	7
1. 2	安全指針	9
1. 3	安全装置	9
2.	組み立て	10
2. 1	全般	10
2. 2	ボギーコンプリートの組み付け	10
2. 3	ローラーの組み付け	11
3	輸送	12
3. 1	全般	12
3. 2	本機の輸送	12
4	取り付け方法	14
4. 1	全般	14
4. 2	トラクターへの取り付け	14
4. 3	PTOシャフト調整	14
4. 4	サポート	15
4. 5	走行時の安全装置	15
4. 6	油圧ホースの接続	15
5	取り外し	16
5. 1	全般	16
5. 2	トラクターからの取り外し	16
5. 3	油圧ホースの保護	16
5. 4	PTOシャフトの取り外し	16
5. 5	ボギーコンプリートの安全性	17
6	作業方法	18
6. 1	全般	18
6. 2	PTOシャフトの回転方向	18
6. 3	作業中の上昇位置	18
6. 4	本機の回転	18
6. 5	吹き出しノズルの設定	19
7	作業	20
7. 1	全般	20
7. 2	作業開始	20
7. 3	作業／輸送	20
8	整備	21
8. 1	全般	21
8. 2	定期点検	21

8. 3	グリスアップ	22
8. 4	ギアオイル交換	24
8. 5	清掃	25
8. 6	油圧接続	25
8. 7	油圧回路図	25
8. 8	Vベルト	26
8. 9	タイヤ空気圧	26
8. 10	改造と純正部品の使用	27
8. 11	分解、処分	27
9	装備	28
9. 1	標準装備	28
10	仕様	29
10. 1	仕様	29
10. 2	キャップスクリューとボルトの締め付けトルク	33
10. 3	シリアルナンバー	33

1. 安全

安全情報の理解

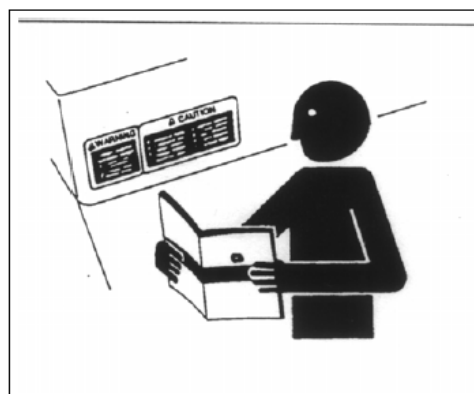
これは安全警告のマークです。機械や取扱説明書にてこのマークを見た際は、怪我に注意をして下さい。以下の警戒事項や安全な作業の実施を推奨します。



安全指針

本書の安全指針や機械の安全事項を全て注意深く読んで下さい。作業方法を習熟し、適切な操作を行なって下さい。習熟前の作業は行なわないで下さい。

機械の適切な作業状態を保持して下さい。



防護服

採寸の合った、業務に適切で安全な服を着用して下さい。

長時間の騒音は、聴覚の損傷や難聴の原因になります。

機械騒音から適切に聴覚を守るため、不快で大きな騒音に対して耳当てや耳栓を着用して下さい。

作業への十分な配慮の上で、安全管理作業を行なって下さい。



P T Oシャフト回転の周囲の確保

P T Oシャフトの回転に関する障害物は怪我、死の原因になります。

トラクターのマスターシールドやP T Oシャフトのカバーを常時取り付けておいて下さい。シールドやカバーの回転を妨げないようにして下さい。

採寸のあった服を着用して下さい。P T Oシャフトの調整、接続、清掃を行なう前にエンジンを止め、P T Oシャフトを停止させて下さい。



保護と防護具

常時保護と防護を行なって下さい。良好な状態にて正確かつ確実に取り付けを行なって下さい。

常に保護具や防護具を外す前に、P T Oシャフトを取り外し、エンジンを止め、鍵を取り外して下さい。手や足を本機の動作する部品へ近付けないで下さい。

高油圧の回避

皮膚を貫通し、致命的な傷害を与える油圧を回避して下さい。
油圧回路等を取り外す前に圧力を開放し、危険を回避して下さい。

加圧する前に、全ての接続部を全て締めて下さい。

紙類を使用して油漏れを確認して下さい。手や体を高油圧から防護して下さい。

事故が起きた際は、すぐに医者診断を受けて下さい。油圧が貫通した皮膚は、数時間以内に外科手術を受けなければ壊疽を起す可能性があります。この類の症状に慣れている専門医の指示を仰いで下さい。



油圧回路周辺の高熱回避

可燃性のあるスプレーは、油圧回路周辺の高熱や自分自身、周囲の人へ深刻な火傷を生じさせます。溶接やはんだを油圧周り、他の可燃性のある材料に近付けず、加熱をしないで下さい。熱された部分が近づいた際には、油圧回路が切断されます。



溶接や加熱前の塗装剥がし

溶接はEN 287のような溶接技術検定を所持している適切な方が行なって下さい。

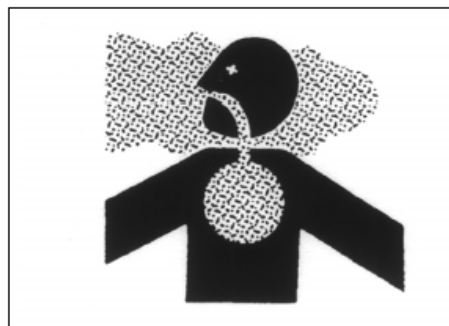
有毒性を持っている可能性があるガスや灰を、避けるようにして下さい。

溶接やはんだや吹管を行い、塗装を熱している際に有毒ガスが発生します。

屋外や風通しの良い場所で作業を行なって下さい。塗料や溶剤は適切な場所に配置して下さい。

溶接や加熱前に塗料を剥がして下さい：

- ・塗料を磨き、摩滅してしまった際は、塵を吸い込まないようにして下さい。
- ・溶接の前に洗剤や水と一緒に溶剤や塗料剥がしを使用して下さい。溶剤や塗料剥がしの容器や可燃性のあるものを付近から遠ざけて下さい。溶接や加熱から15分間はガスが分散することがあります。



1. 1 安全デカル

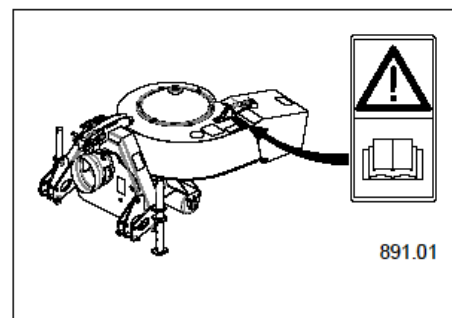
安全表示記号

本機の重要な位置に、危険の可能性を示す安全記号が付けられています。これに付随して、以下の各々の指針を遵守して下さい。



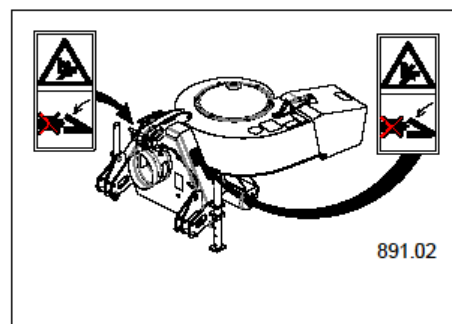
作業指針

本書の作業指針には、機械の安全な作業にあたって必要な事項が全て記載されています。事故を避けるために、安全規則を遵守して下さい。



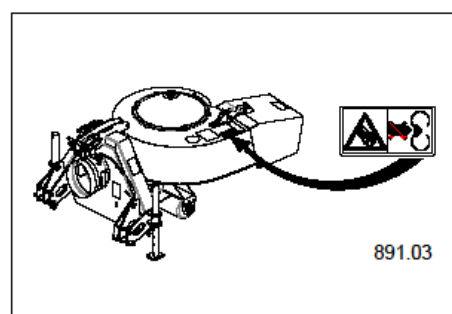
回転角度

部品と同程度の長さまで動く可能性がありますが、危険な位置までは動かさないで下さい。



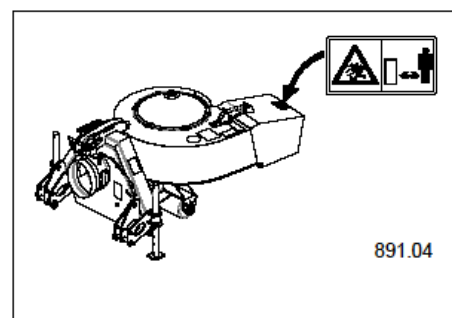
吹き出し

エンジンが動いている間は、吹き出し部分の内側へ手を入れないで下さい。



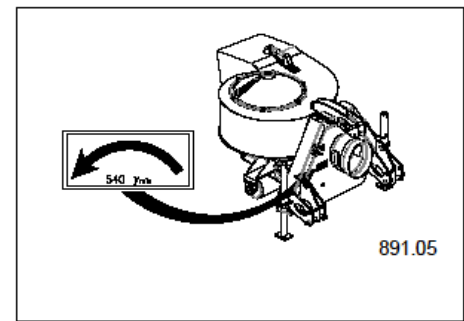
吹き出しノズル

吹き出してくる物や飛来物から起こる怪我の危険性を回避するために、安全な作業を確保する時には十分な距離を保って下さい。



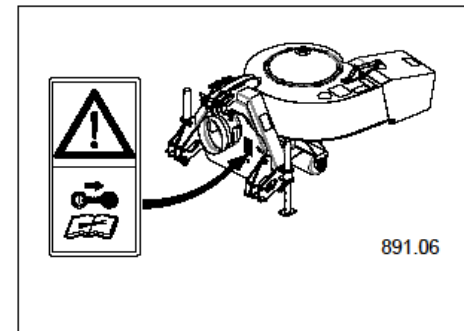
PTOシャフトの回転方向と回転数

PTOシャフトの回転方向と回転数は、必ず遵守して下さい。
初回始動時は確認を行なって下さい。回転限界数を上回ってはいけません。本機に大きな損傷を与える危険性があります。



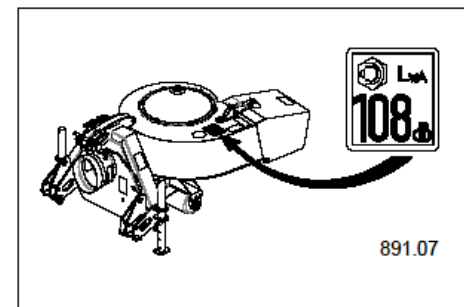
整備

整備や修理を行なう前にエンジンを切り、鍵を取り外して下さい。

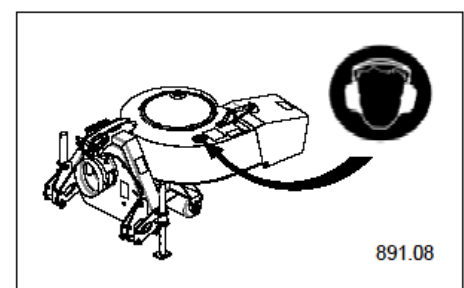


騒音量

このデカルは、2000/14/ECの第13項によって指示された測定量を表記しています。



数時間使用する際は、耳あての使用を推奨します。



1. 2 安全指針



- ・作業指針に関する指示に従う一方、事故防止用の全般的安全仕様及び規定にもまた注意して下さい。
- ・本機を使用する前に、各装置、運転要項、機能の全てに精通することが重要です。防護具を全て正しく取り付けていることを確認して下さい。作業中の確認では遅過ぎます。
- ・作業場所では、第三者の安全に責任を負う必要があります。
- ・本機の始動前に、周辺に人（特に子供）がいないことに注意して下さい。視界が良好であることを確認して下さい。
- ・本機の危険部位の範囲内には絶対に立ち入らないで下さい。
- ・エンジンを切り、P T Oシャフトの回転を止めた後に、本機をトラクターへ取り付けて下さい。
- ・機械取り付け用に設計されたP T Oシャフトだけを使用して下さい。
- ・トラクターの操作を確実に維持するために、トラクターへの荷重を十分に保持して下さい。
- ・トラクターの操舵性と作業性は、作業機によって左右されます。地形や土壌条件によって運転方法を調整して下さい。斜面での作業と旋回には特に注意して下さい。
- ・整備をしている間は、本機とトラクターのエンジンを切ってから行なって下さい。
- ・本機を始動する前に、防護具を全て取り付けて下さい。

1. 3 安全装置

安全標示要項

安全標示と以下の安全な実施やそれに類似した文章を機械へ標示させることを推奨します。できる限り作業員から目視できる位置に貼り付けて下さい。

- a) 取扱説明書を熟読して下さい。
- b) 作業員は防護具無しで機械の作業を行なわないで下さい。
- c) 周囲に子供がいる際は、機械の作業を行なわないで下さい。
- d) 訓練を受けていない人による作業は許可されていません。



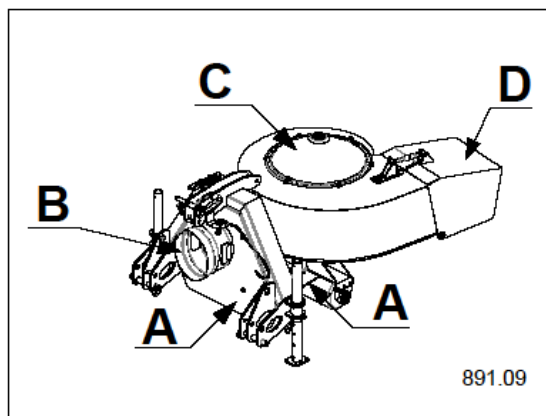
危険と注意！

安全ではない状況下では、絶対に本機を使用しないで下さい。

さもないと自身や周囲の人を極度の危険に巻き込むことになります。

⇒部品を取り外す際は、十分に注意して作業して下さい。

- A = カバー（工具を使用して取り外します。）
B = P T Oシャフトの保護（工具を使用することで接続することができます。）
C = グリル（工具を使用して取り外します。）
D = 吹き出し口（工具を使用して取り外します。）



2. 組み立て

2. 1 全般



警告

全ての作業時には、本機をトラクターへ取り付ける必要があります。最上部の取り付け穴にサポートの足を差し込むことができるように、後方油圧を使用し、本機を上昇させて下さい。怪我に注意をして行なってください。

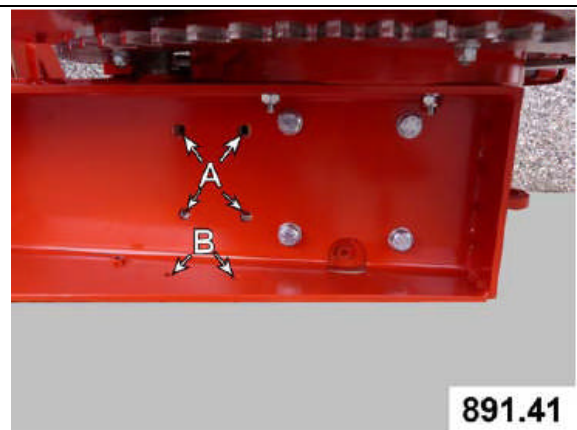
この作業時には、手袋やゴーグルや耳あてのような防具を使用して下さい。

2. 2 ボギーコンプリートの組み付け

下記の取り付け箇所で2本のフレームが支えます。

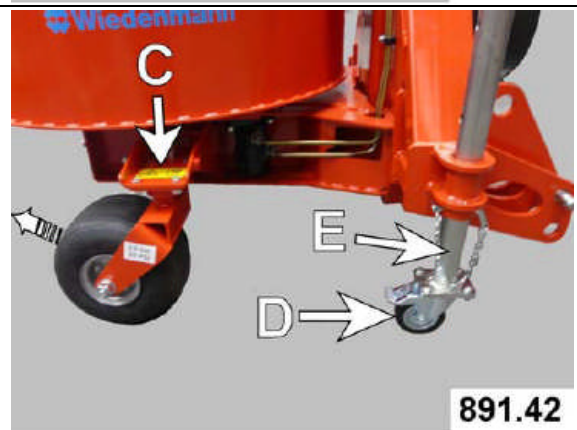
4 ネジ山付きの穴 (A)

2 穴 (B)

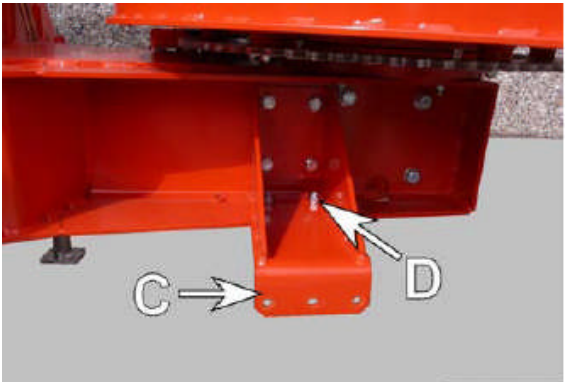
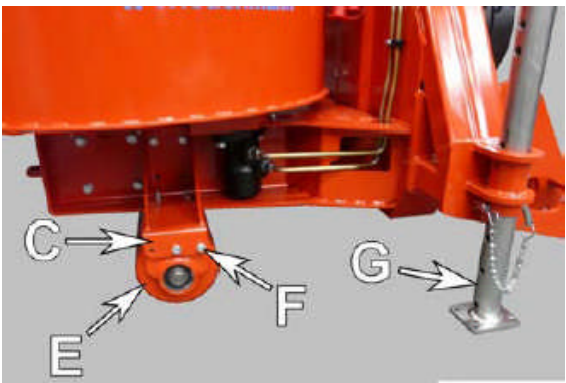
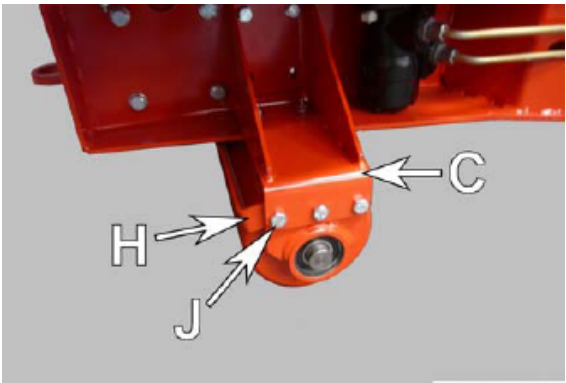


フレームを右向き (C) に取り付け、走行タイヤを後ろ向きに固定します。(891.42 参照)

ローラー (D) を取り付ける際は、左のサポートスタンド (E) の下側へブレーキの取り付けを推奨します。



2. 3 ローラーの組み付け

下記の取り付け箇所でローラーを取り付けます。 4 ネジ山付きの穴（A） 2 穴（B）	 891.41
両側のブラケット（C）へ取り付けます。 下側から六角ボルト（D）を差し込みます。	 891.43
ローラー（E）の両端にベアリングを使用し、各々のブラケット（C）の前の穴へ2個の六角ボルト（F）を取り付けます。 ローラーを使用際は、サポートスタンド（G）は取り外して下さい。	 891.44
ストリッピングボウルは、取り付けられている六角ボルトとローラーの付近にブラケットに取り付けて下さい。	 891.45

3. 輸送

3. 1 全般



警告

- ・牽引部を使用し、安全に本機の輸送を行なって下さい。
- ・フォークリフトやクレーン、ホイストを十分な荷重容量下で使用して下さい。
- ・持ち上げている最中の本機の下には決して進入しないで下さい。落下し、命の危険性が生じます。

不適切な本機の輸送や取り付けは以下の結果を起こします。

- ・重度な怪我
- ・所有物の損傷

牽引部にて本機を持ち上げる際は、進行方向に特に注意をして下さい。

不適切な操作による結果として怪我の責任を負うことはできません。

3. 2 本機の輸送



警告

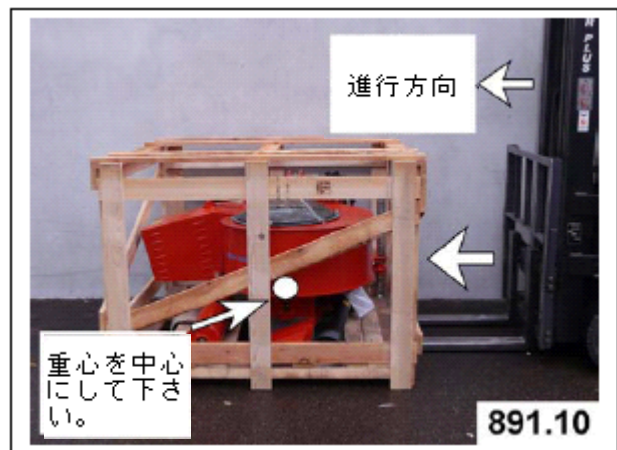
木枠を切る際は、注意をして下さい。

不要意に取り外した際は、相応の重度の危険性が生じます。

3. 2. 1 フォークリフトによる輸送

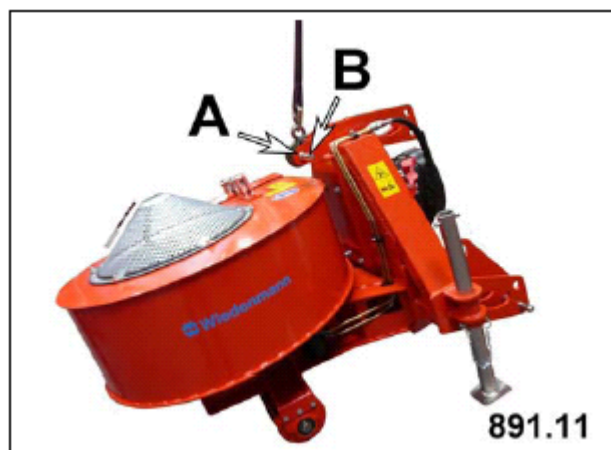
本機を牽引部へ安全に取り付けた際は：

- ・牽引部を下へフォーク部を入れて下さい（進行方向には注意して下さい）。
- ・注意をして牽引部を持ち上げて下さい。
- ・両端を吊るした際は、輸送装置から本機を下ろして下さい。
- ・木枠を取り外して下さい。
- ・本機をトラクターへ取り付けて、牽引部を持ち上げて下さい。



3. 2. 2 クレーンによる輸送

- ・トップリングのフレーム後方の穴にロープやフックを架けて下さい。
- ・本機を安全に吊るし、降ろして下さい。
輸送時の破損や欠品のある際は、至急輸送業者
や販売店へ報告して下さい。



3. 2. 3 輸送車両上の牽引部



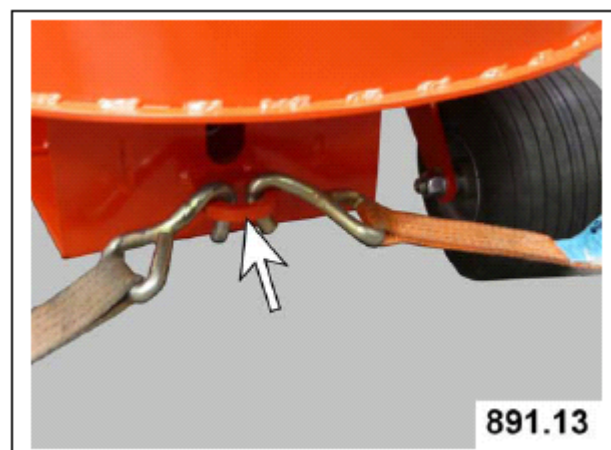
警告

5. 2の取り外しの項の転倒の危険性を確認して下さい。

対角線状になるように交差させて帯を締めて下さい。

本機の前方の牽引部へ帯のフックを架けて下さい。

本機の方の牽引部へ帯のフックを架けて下さい。



4. 取り付け方法

4. 1 全般



警告

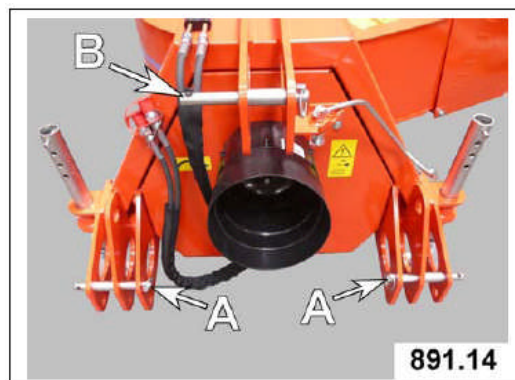
エンジンとPTOスイッチを切った状態で機械の取り付けを行なって下さい。機械に記載されている重大な警告や安全指針を元に実行して下さい。あなたの安全を守るためこれらの記載をよく確認して下さい。

トラクターの仕様に対して、エンジンの速度と回転方向（機械のデカル）を確認して下さい。エンジン速度と機械の回転方向の設定がデカルに記載されています。

4. 2 トラクターへの取り付け

標準では、3点リンクケージにて本機を取り付けます。

1. 底部の両側へピン（A）をロッドへ安全に取り付けて下さい。
2. 上部のトラクターの穴の形状に合わせてロッドとピン（B）を安全に取り付けて下さい。
3. ロッドの最上部の取り付けで調整を行ないます。



備考

ブロアーが地面に対して平行に取り付けられるように気を付けて下さい。

4. トラクターへ油圧ホースを繋いで下さい。
5. 製品の仕様に沿ってユニバーサルドライブシャフトを取り付けて下さい。

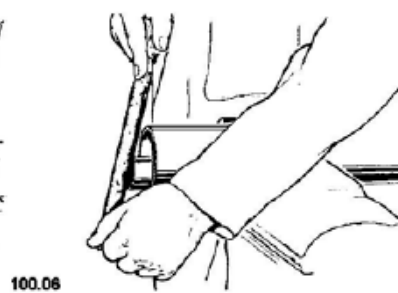
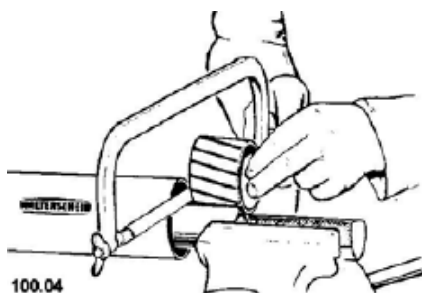
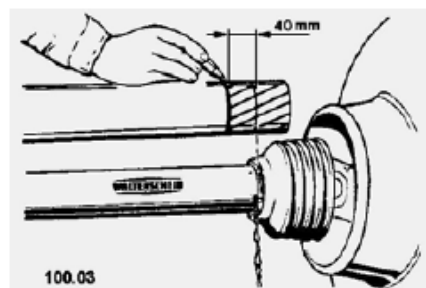
4. 3 PTOシャフト調整

双方のシャフトの半分から先を手に取り、最短時の位置を測標にして長さを調整して下さい。

内側が短く、外側がカバーで均一に保護されています。

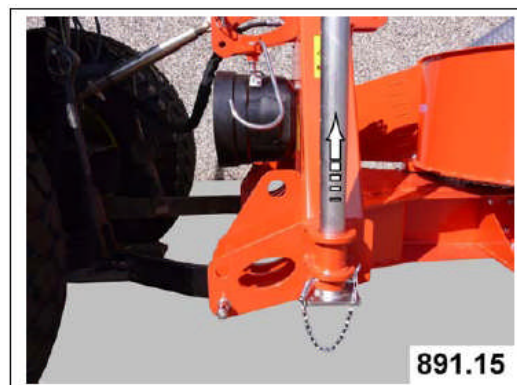
カバーの長さが同じな際は、内側を短くし外側の側面滑らせてカッターで切り取って下さい。

回転させながら鋭利なバリを取り、グリスを塗布して下さい。



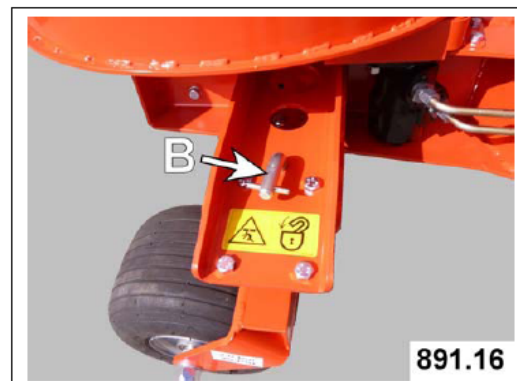
4. 4 サポート

2本の足を最上部まで差し込み、スプリングクリップで安全に取り付けて下さい。



4. 5 走行時の安全装置

ホイールヨークの穴からピン（B）を上方向へ引き抜いて下さい。固定する際には、最上部でピン（B）を右に回転させて下さい。



4. 6 油圧接続

油圧レバーにて切り替えが可能な吹き出し口の回転を油圧モーターで行なうために、1個の複動油圧バルブが必要です。回転動作のための油圧バルブは3種類のコネクタがあります。油圧回路へ不純物の侵入を防ぐために、接続を行なう前のコネクタとソケットを余すところなく清掃する必要があります。切れてしまったり擦り傷ができないように、ホースを取り付けなければなりません。必要であれば、ホースを適切に固定して下さい。

ブロアーを取り外す際に、汚れ防止のキャップを取り付けてダメージや汚れから油圧コネクタを守ることを推奨します。



5. 取り外し方法

5. 1 全般



警告

エンジンとPTOスイッチを切った状態で機械の取り付けを行なって下さい。
本機を硬く平らな平面へ接地させて下さい。

5. 2 トラクターからの取り外し

- ・本機を上昇させて下さい。
- ・両側のサポートスタンドをスプリングクリップで適切な場所に差し込んで下さい。(891.18参照)
- ・フレームへ取り付ける時は、5.2の項目を参照して下さい。-本機の上下動には危険が伴います。

- ・本機を下降させて下さい。
- ・トラクターからPTOシャフトのユニバーサルジョイントを取り外します。(5.4参照)
- ・トラクターから油圧ホースを取り外して下さい。
- ・本機からトップリンクを取り外して下さい。
- ・下部のリンクを取り外して下さい。
- ・本機にピンと輪止めを取り付けて下さい。



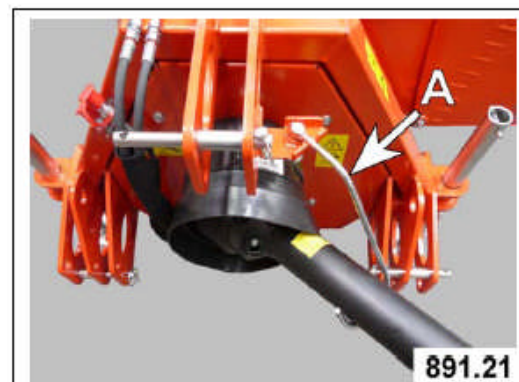
5. 3 油圧ホースの保護

- ・油圧ホースのコネクタへキャップを取り付けて下さい。



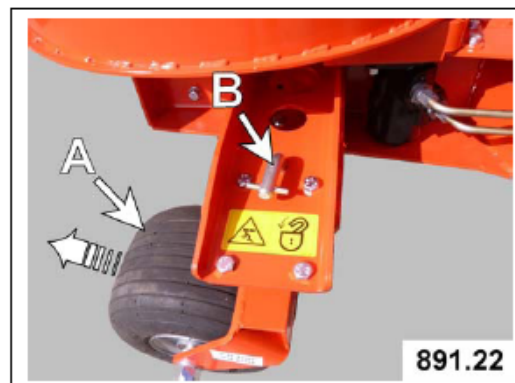
5. 4 PTOシャフトの取り外し

- ・取り付け部分を約45° 曲げ、ブラケットを上方へ、ピボットを前方へ引いて下さい。
- ・保管している間は、ピボットマウントブラケットの中へユニバーサルPTOシャフトを入れて下さい。



5. 5 ボギーコンプリートの安全性

両側の補助輪（A）を後方へ向けます。ピン（B）を少し上げて、左へ回して下さい。ピン（B）を補助輪のヨークへ固定します。



6. 作業

6. 1 一般情報



注意

整備を行なう前に適切な防護具を身に付け、全ての機構や動作に精通することが重要です。作業をしてからでは遅過ぎます。

付属部品の周囲や、P T Oシャフトを回転させる前にP T Oシャフトの周りの危険な範囲に誰もいないことを確認して下さい。

本書や全般的な安全規則、危険を予防するための規則を遵守して下さい。

前側の重量バランスを十分に安定させられるように整備を行なう必要があります。(必要に応じて、トラクターの取扱説明書を読み、バランスウェイトを取り付けて下さい。)

坂路での作業は気を付けて下さい。転倒は危険です！

6. 2 P T Oシャフトの回転方向

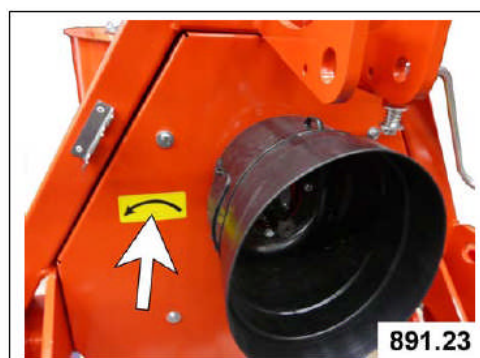
本機の最大回転数は5 4 0回転未満と記載されています。



注意

5 4 0回転以上での回転数に関して、以下を強く明示します。

本機のインペラーの破損が原因による回転数超過は、5 %程度(5 6 5回転)を許容することができます。部品が周囲に飛び散ったり、重大な怪我や本機の破損の危険性があります。最初に使用する際は、P T Oシャフトとインペラーの正しい回転方向に注意を払って下さい。



6. 3 作業中の上昇位置

十分な平地上でのトラクターと本機の使用。

トラクターの後方油圧を使用し、三点リンクを下げて下さい。

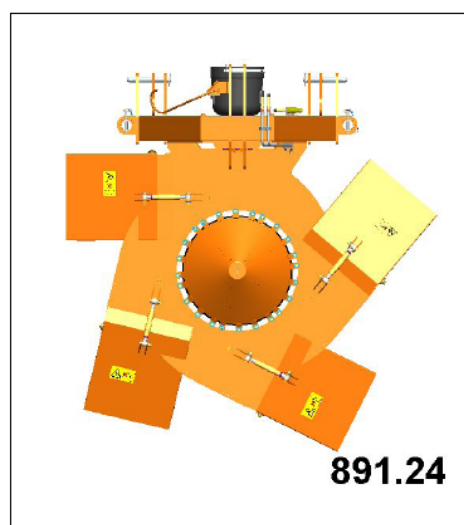
確実に本機と地面を平行に設定して下さい。

6. 4 本機の回転

油圧によって本機が回転することにより、吹き出し口を左側から右側、後方へ動作させることができます。

トラクターの仕様によって、本機回転時のコントローロバルブの動作による油圧容量に注意して下さい。

ほとんどの新しいトラクターの中は、本機を円滑に回転させることのできるオイル量を保持しています。



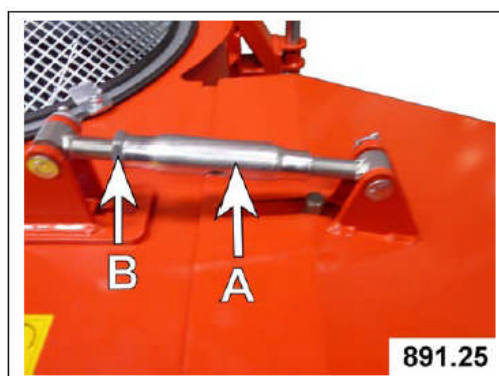
6. 5 吹き出しノズルの設定

調整バー(A)で吹き出し口を調整することで、風向を変更することができます。

風向を地上に対して水平にすることで、集中的な風力を得ることができますが、風の巻き上げを増加させてしまいます。

吹き出し口が水平に設定されている際は、遠距離まで風を供給することができます。

ナット(B)を確実に取り付けて下さい。



7. 作業

7. 1 全般



注意

本機の作業者は、作業場所内の人に対し、責任を持つ必要があります。安全なトラクターが確保できない際は、本機の作業を行なわないで下さい。

安全性の無いトラクターで作業を行なった際は、自分自身や他の人を危険に巻き込むことになるでしょう。

運転を開始する際は、常に周囲を確認して下さい。石（瓦礫や砂利）のあるような場所では作業をする際は、飛来物を避けるために十分に安全な場所で作業を行なうことで、重大な怪我を回避することができます。

P T Oシャフトの停止

- ・トラクターのエンジンが停止している時は、スイッチを入れないで下さい。
- ・作業の必要がない時は、常にスイッチを切っておいて下さい。
- ・本機を上昇させる時は、常にスイッチを切って行なって下さい。

7. 2 作業開始

本機のモーター速度の最大値を超過しないで下さい。

備考

P T Oシャフトのスイッチを入れる際は、エンジン回転数をアイドリングから半分程度まで落とすと同時に注意深く行なって下さい。

最後に、モーター速度を希望する回転数まで上げて下さい。（最大回転数5 4 0）

7. 3 作業／輸送

本機を下降させて作業を行なって下さい。

作業中の本機は接地させないように調整する必要があります。これは本機が接地する際の逃げを生じさせます。

8. 整備

8. 1 全般



注意

- ・トラクターの取り付けた状態で作業を行なって下さい。
- ・専門の整備担当者のみが整備、修理、分解を行なって下さい。
- ・修理、整備、清掃を行なって不調を取り除く際は、エンジンやPTOシャフトを停止させて行なって下さい。鍵を取り外して下さい。
- ・遠心力により本機が動く可能性があります。その際は本機から離れて下さい。本機が停止した時のみ作業を継続することができます。
- ・機械の整備だけでなく、清掃やグリスアップも行なう必要があります。作業後は洗浄し、十分に確認を行なって下さい。
- ・純正部品のみを使用して下さい。

社外部品はしばしば適合せず、安全を脅かす恐れがあります。

ウィデンマンから認可をされておらず、販売されていない非純正部品の記述に関して我々は特に指摘します。非純正部品を使用することで、車両や安全性にも影響し、構造上の特性にも悪影響を及ぼします。非純正部品の使用による破損は、製造上での保証を負うことができません。

- ・溶接は、溶接技術の所持者のみが作業を行なって下さい。

8. 2 定期点検

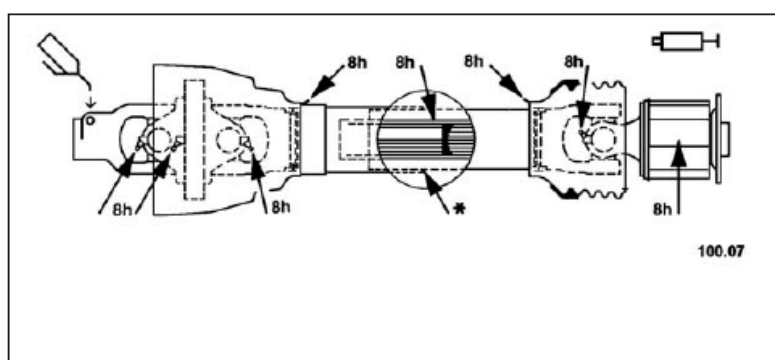
点検期間	点検場所	整備
毎日	吹き出し部分	清掃 次回の作業時の適切な作業性を保証するために、作業後は清掃を行なって下さい。
	油圧	回転機構の組み付け

点検期間	点検場所	整備
毎週	PTOシャフト	グリスアップ（8. 3. 1 参照）
	ギア	グリスアップ（8. 3. 2 参照）
	可動部品	注油とグリスアップ
	油圧	オイル量の確認
	Vベルト	確認（8. 8 参照）
	フレーム	タイヤ空気圧の調整（8. 9 参照）

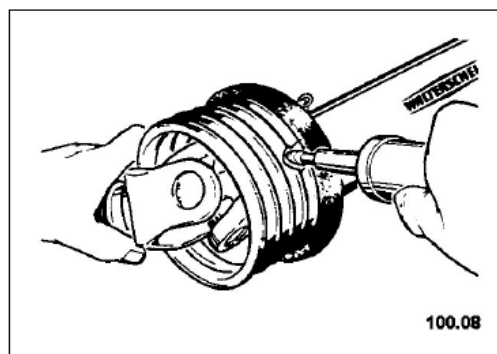
点検期間	点検場所	整備
毎年、又は必要に応じて	ギア	ギアオイルの交換（8. 4 参照）
	本体	来期分のスプレーオイルの常備と使用期間の最後に十分に清掃を行なって下さい。 保管後の使用前に年間点検を実施して下さい。

8. 3 グリスアップ

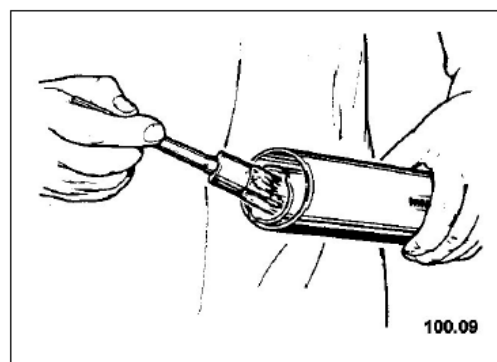
8. 3. 1 PTOシャフト



- ・カバーの内側をグリスアップして下さい。
- ・長期保管を行なう前に、清掃とグリスアップを行なって下さい。



- ・汚れが蓄積している際は、カバーを清掃し、シャフトを防護して下さい。





注意

作業時にサポートの位置まで後方油圧を使用して本機を上昇させることで、全ての位置にグリスアップを行なうことができます。

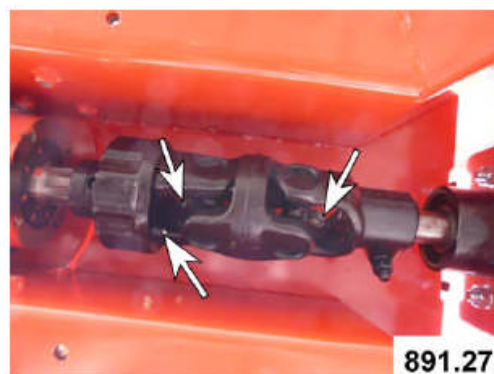
8. 3. 2 ギア回転

ギア回転部には反対側も含めて2箇所のグリスニップルがあります。



8. 3. 3 ユニバーサルジョイント

カバーを取り外し、3箇所のグリスニップルへグリスアップを行なって下さい。



8. 3. 4 サポートホイール



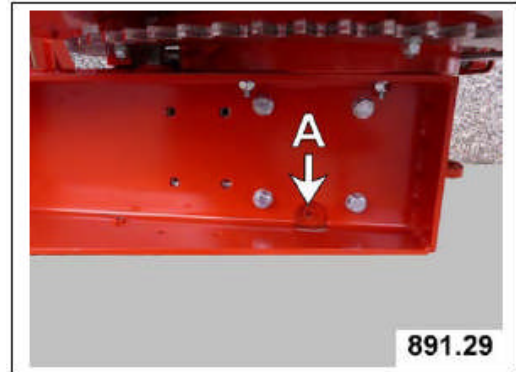
8. 4 ギアオイル交換



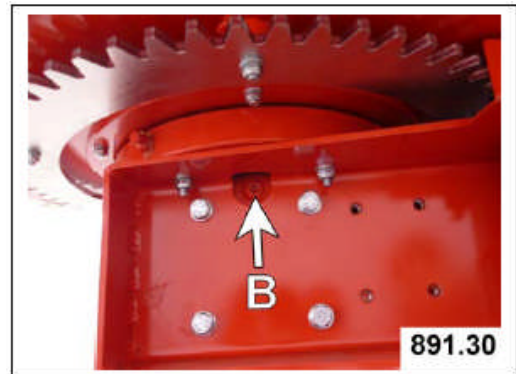
注意

油圧オイルの漏れは肌を貫通し、重大な怪我の原因になります。

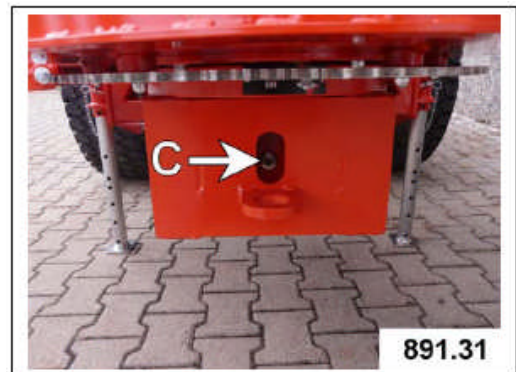
- ・ ギアボックスの下側に廃油トレイを設置して下さい。
- ・ ドレンスクリュー(A)を取り外して下さい。



- ・ エキゾーストフィルター(B)を取り外して下さい。



- ・ オイルを入れる容器の中へオイルを出して下さい。
- ・ もう一度ドレンスクリューを締めて下さい。
- ・ 作業中の高さに設定し、レベルゲージの上昇を確認しオイルを入れて下さい。
- ・ 法律に沿った方法で使用済みオイルを破棄して下さい。



8. 5 清掃

空気吸入部を主に清掃を行なって下さい。

エアーコンプレッサーや高圧洗浄機を使用する際は、水や砂利等がギアやベアリングへ入らないように清掃を行なって下さい。

8. 6 油圧接続

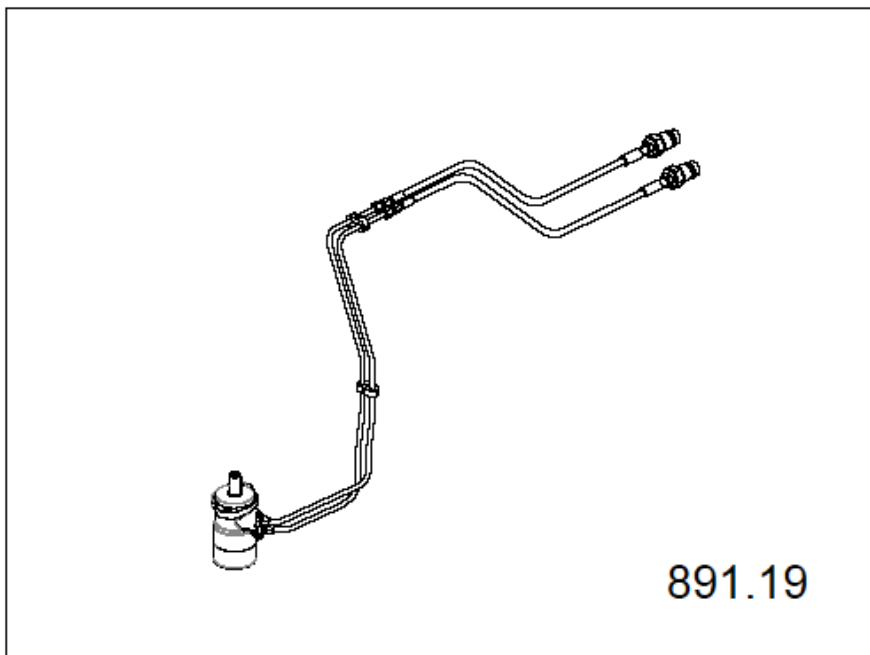


注意

- ・ホースの損傷や劣化を定期的に確認し、必要に応じて交換して下さい。
- ・油圧接続を取り外す前に、油圧を開放することによる危険を回避して下さい。圧力をかける前に、全ての接続部の増し締めを行なって下さい、
- ・厚紙を使用し、漏れを確認して下さい。高油圧から手や体を防護して下さい。
- ・事故が起きた際は、すぐに医者診断を受けて下さい。油圧が貫通した皮膚は、数時間以内に外科手術を受けなければ壊疽を起す可能性があります。この類の症状に慣れている専門医の指示を仰いで下さい。

8. 7 油圧回路図

8. 7. 1 本機中心部



8. 8 Vベルト

30分程度の作業を行なった後は、Vベルトの張りを確認する必要があり、必要に応じて調整を行なって下さい。

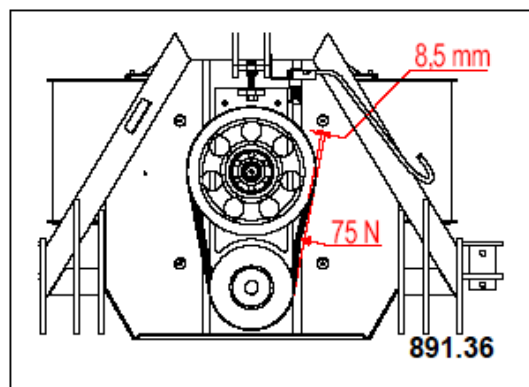
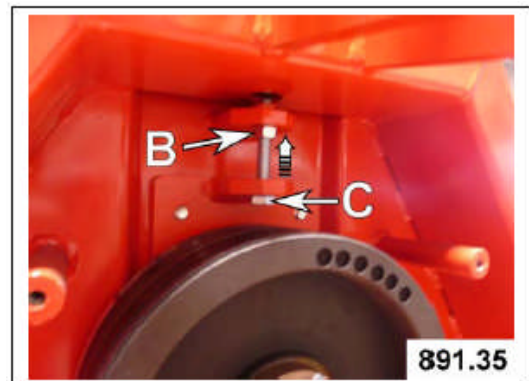
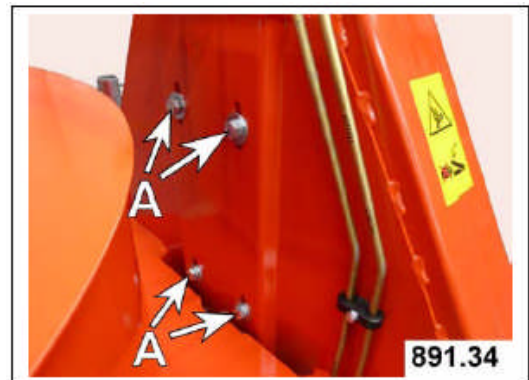
Vベルトの損傷は常時確認を行なって下さい。

損傷している際は、Vベルトの交換を行なって下さい。Vベルトの長さが僅かながら変わってしまうため、1本だけの交換は行なわないで下さい。

1. プレートを外すために、スクリー(A)を4箇所取り外して下さい。
2. ガードパネルを取り外して下さい。
3. ナット(B)を取り外して下さい。
4. スクリュー(C)の留め具を取り外して下さい。(ベルトプーリーと共にスクリーを下げして下さい。)

8. 5mmの間隔と75Nにて取り付け及び調整を行なって下さい。

5. ナット(B)を締めて下さい。
6. プレート上へスクリー(A)を締めて下さい。
7. ガードパネルを取り付けて下さい。
ベルトの張りが強過ぎる際は、ベアリングやベルトを留めているスクリーの耐用年数に悪影響を及ぼします。



8. 9 タイヤ空気圧

作業場所に応じて、タイヤ空気圧を変更して下さい。

・舗装路や滑り易い芝や作業場所

最大値 2.0 psi

・作業場所に応じて、タイヤ空気圧を変更して下さい。

最小値 0.5 - 1.0 psi

タイヤの接地面を拡大し、路面に合わせて空気圧を減少させるか、悪路の走行を避けて下さい。

備考

荷重量は変化して行きます。縁石や切り株等の障害物に対しては、速度を落とし本機を上昇させて下さい。さもないとタイヤが破損してしまいます。



8. 1 0 改造と純正部品の使用

本機の改造は、製造元の認可の下以外では行なわないで下さい。

純正予備部品やアクセサリを使用により、安全性が保証されます。社外部品を使用した際の破損、故障は責任を負うことはできません。

8. 1 1 分解、処分



警告

機械を分解する際は、注意深く作業を行なって下さい。

安全と警戒の項目を読み、状況に応じて安全規則を遵守して下さい。

危険事項

- ・ 油圧部品や油圧ホース
- ・ 取り外した後の重量のある部品の落下
- ・ 鋭利な端部分
- ・ 部品が落ちた際の、下敷きになった物の破損
- ・ 転倒による破損

処分のための分解

1. 堅い地面に本機を設置して下さい。
2. 油圧オイルを抜いて下さい。
3. 分解は最上部から順に最下部まで作業を行なって下さい。

重要

規則と法律上の危険物の管理を厳密に遵守して下さい。分解に関しては、詳細な情報を入手して下さい。

9. 装備

9. 1 標準装備

- ・ブローアー メガツイスター
後方三点リンク取り付け
- ・油圧調整角度 230°
- ・サポートローラー、またはボギーコンプリートを選択可
- ・吹き出しノズル角度の調整
- ・PTOシャフト（PTOシャフト接続の項目を参照し、各々のトラクターに取り付けを行なう必要があります。）
- ・取扱説明書、保証書付き輸送申告書

10. 仕様

10. 1. 1 ボギーコンプリート取り付け時の仕様

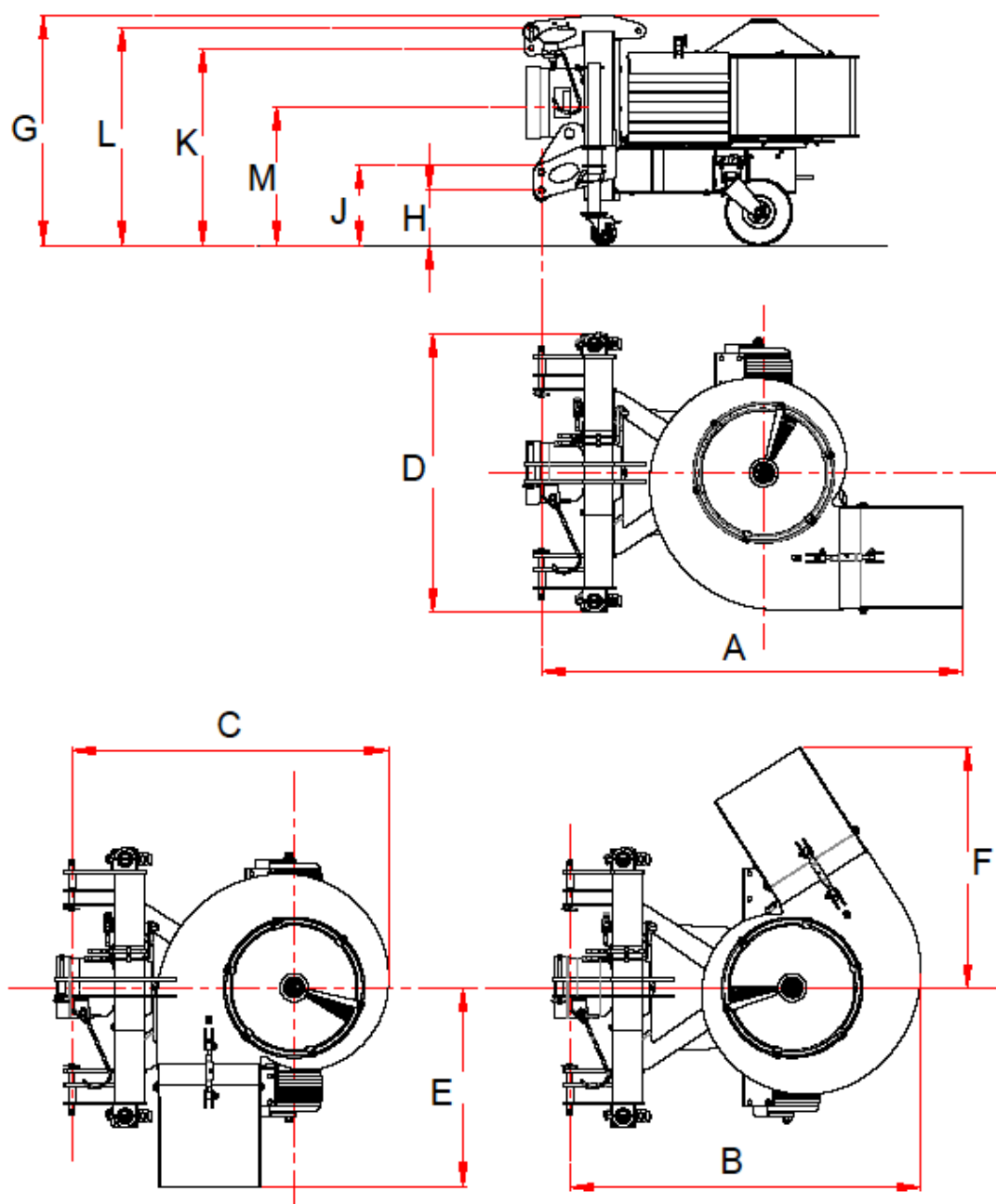
A	吹き出しノズル含む後方までの長さ	1,730mm
B	回転部を含む右側までの長さ	1,415mm
C	回転部を含む左側までの長さ	1,276mm
D	吹き出しノズルを含まない幅	1,127mm
E	回転部中心から吹き出しノズルを含む右側までの幅	802mm
F	回転部中心から吹き出しノズルを含む左側までの幅	910mm
G	高さ	925mm
H	ロアーリンク取り付け部下側までの高さ	220mm
J	ロアーリンク取り付け部上側までの高さ	295mm
K	トップリンク取り付け部下側までの高さ	795mm
L	トップリンク取り付け部上側までの高さ	870mm
M	PTOシャフト取り付け部までの高さ	555mm

本体回転角度	230°
必要馬力	50馬力
PTOシャフト最大回転数	540回転
タービン最大回転速度	840回転
風量	毎分390立方メートル
風速	毎秒50メートル

重量:

本体部	334kg
ボギーコンプリート	38kg
最大総重量	380kg

騒音量	93db(A)
音圧量	108db(A)



891.38

10. 仕様

10. 1. 2 ローラーサポート取り付け時の仕様

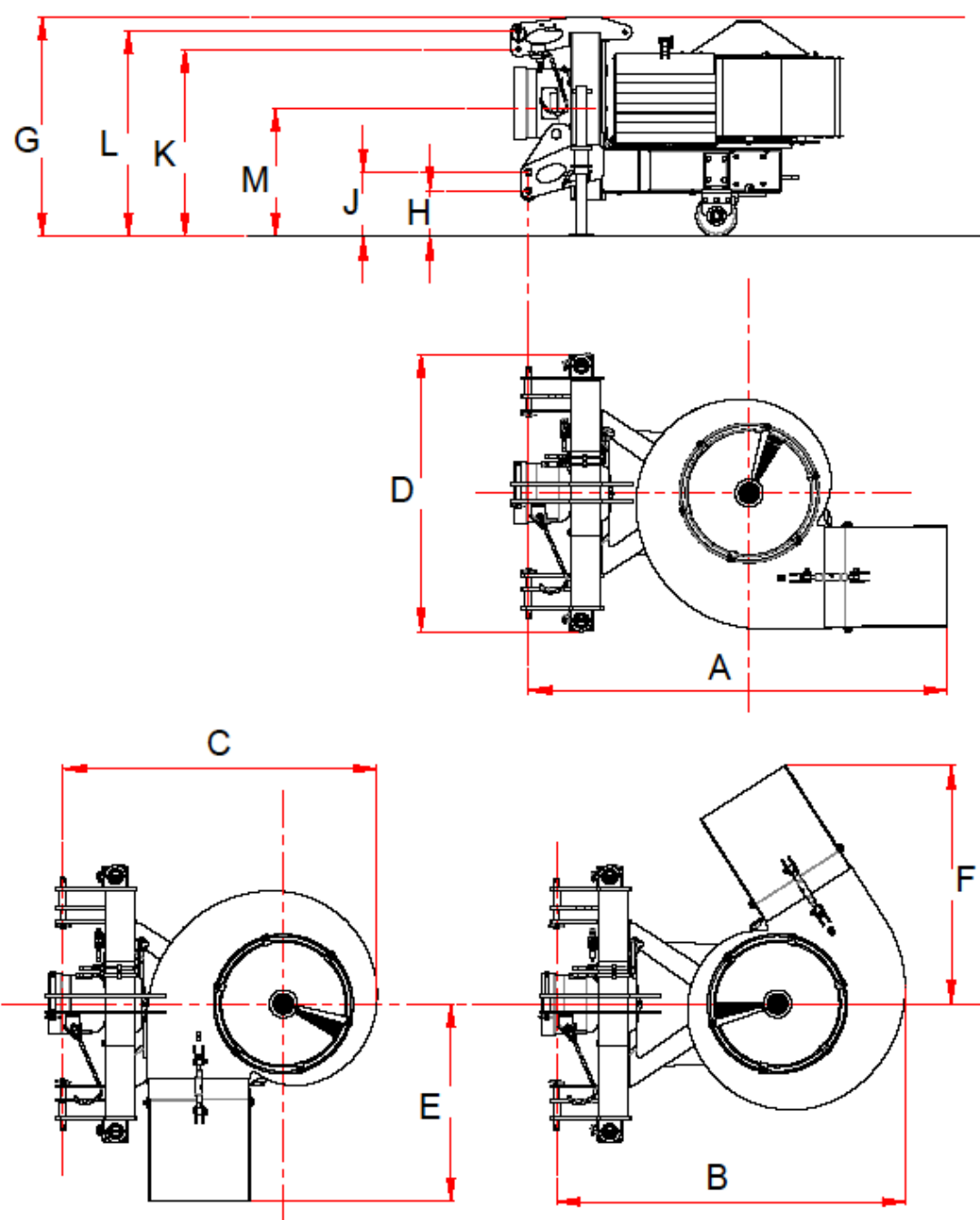
A	吹き出しノズル含む後方までの長さ	1,730mm
B	回転部を含む右側までの長さ	1,415mm
C	回転部を含む左側までの長さ	1,276mm
D	吹き出しノズルを含まない幅	1,127mm
E	回転部中心から吹き出しノズルを含む右側までの幅	802mm
F	回転部中心から吹き出しノズルを含む左側までの幅	910mm
G	高さ	925mm
H	ロアーリンク取り付け部下側までの高さ	220mm
J	ロアーリンク取り付け部上側までの高さ	295mm
K	トップリンク取り付け部下側までの高さ	795mm
L	トップリンク取り付け部上側までの高さ	870mm
M	PTOシャフト取り付け部までの高さ	555mm

本体回転角度	230°
必要馬力	50馬力
PTOシャフト最大回転数	540回転
タービン最大回転速度	840回転
風量	毎分390立方メートル
風速	毎秒50メートル

重量:

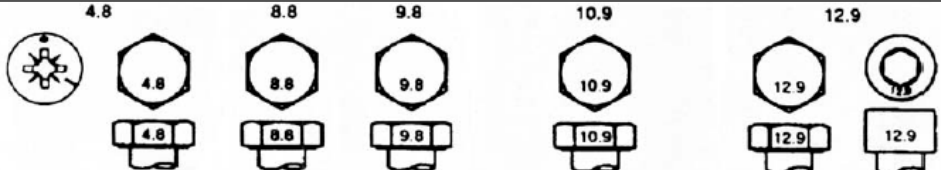
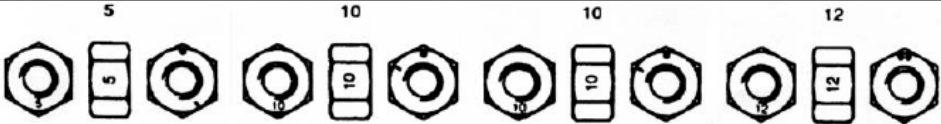
本体部	334kg
ローラーサポート	26kg
最大総重量	380kg

騒音量	93db(A)
音圧量	108db(A)



891.39

10.2 キャップスクリューとボルトの締め付けトルク

Property Class and Head Markings																
																
Size	class 4.8				class 8.8 or 9.8				class 10.9				class 12.9			
	Lubricated *		Dry **		Lubricated *		Dry **		Lubricated *		Dry **		Lubricated *		Dry **	
	N-m	lb-ft	N-m	lb-ft	N-m	lb-ft	N-m	lb-ft	N-m	lb-ft	N-m	lb-ft	N-m	lb-ft	N-m	lb-ft
M6	4,8	3,5	6	4,5	9	6,5	11	8,5	13	9,5	17	12	15	11,5	19	14,5
M8	12	8,5	15	11	22	16	28	20	32	24	40	30	37	28	47	35
M10	23	17	29	21	43	32	55	40	63	47	80	60	75	55	95	70
M12	40	29	50	37	75	55	95	70	110	80	140	105	130	95	165	120
M14	63	47	80	60	120	88	150	110	175	130	225	165	205	150	260	190
M16	100	73	125	92	190	140	240	175	275	200	350	255	320	240	400	300
M18	135	100	175	125	260	195	330	250	375	275	475	350	440	325	560	410
M20	190	140	240	180	375	275	475	350	530	400	675	500	625	460	800	580
M22	260	190	330	250	510	375	650	475	725	540	925	675	850	625	1075	800
M24	330	250	425	310	650	475	825	600	925	675	1150	850	1075	800	1350	1000
M27	490	360	625	450	950	700	1200	875	1350	1000	1700	1250	1600	1150	2000	1500
M30	675	490	850	625	1300	950	1650	1200	1850	1350	2300	1700	2150	1600	2700	2000
M33	900	675	1150	850	1750	1300	2200	1650	2500	1850	3150	2350	2900	2150	3700	2750
M36	1150	850	1450	1075	2250	1650	2850	2100	3200	2350	4050	3000	3750	2750	4750	3500

特別な事例で締め付けトルクが異なる際は、上記の表を使用しないで下さい。純正部品のみ締め付けトルクが記載されています。定期的に締め付けの確認を行なって下さい。

故意に規定以上の力で締め付けられたボルトは切断されます。同じ仕様のボルトと交換して下さい。締め付けるボルトやキャップスクリューはネジ山を清掃してから締め合わせることを推奨します。それにより締め付け不良を防止します。

プラスチックへ差し込まれていたり折れた金属製のナットは、チャート表の乾式の約50%でボルトヘッドではなくナットを使用して締め付けて下さい。のこぎり状になってしまったナットは最大の締め付けトルクで締め付けて下さい。

10.3 シリアルナンバー

各々のシリアルナンバーは図にて明記されている箇所に記載されています。予備部品の注文やクレーム申請の際にこの番号が必要になります。

